

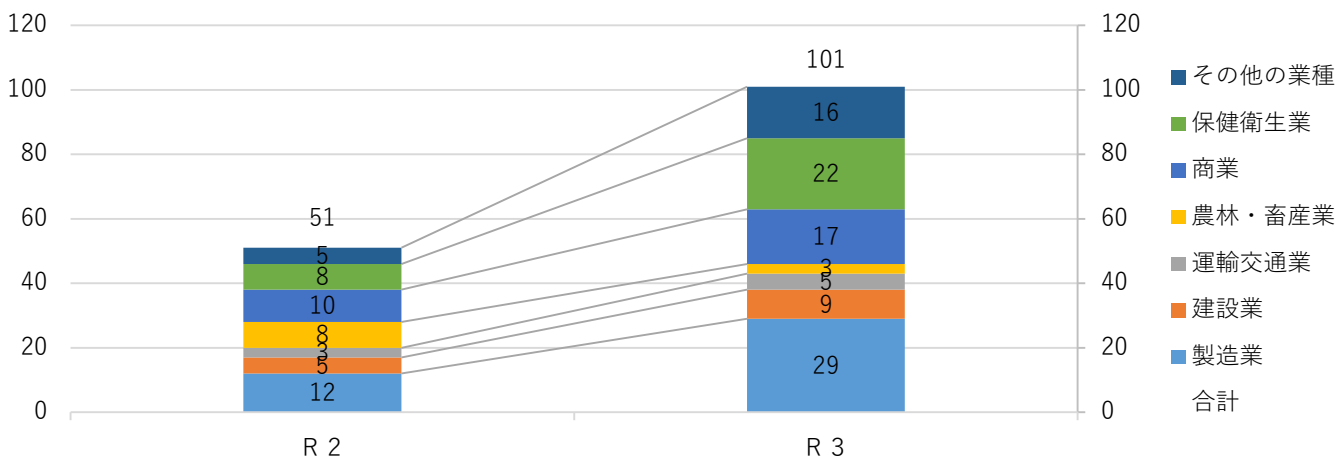
労働災害が多発しています!!

桐生労働基準監督署における令和3年6月末までの労働災害は、**101件**発生しており、前年同期（51件）と比較して**約98.0%増加**しており、業種別では、**製造業、商業、保健衛生業**における労働災害が特に増加しています。

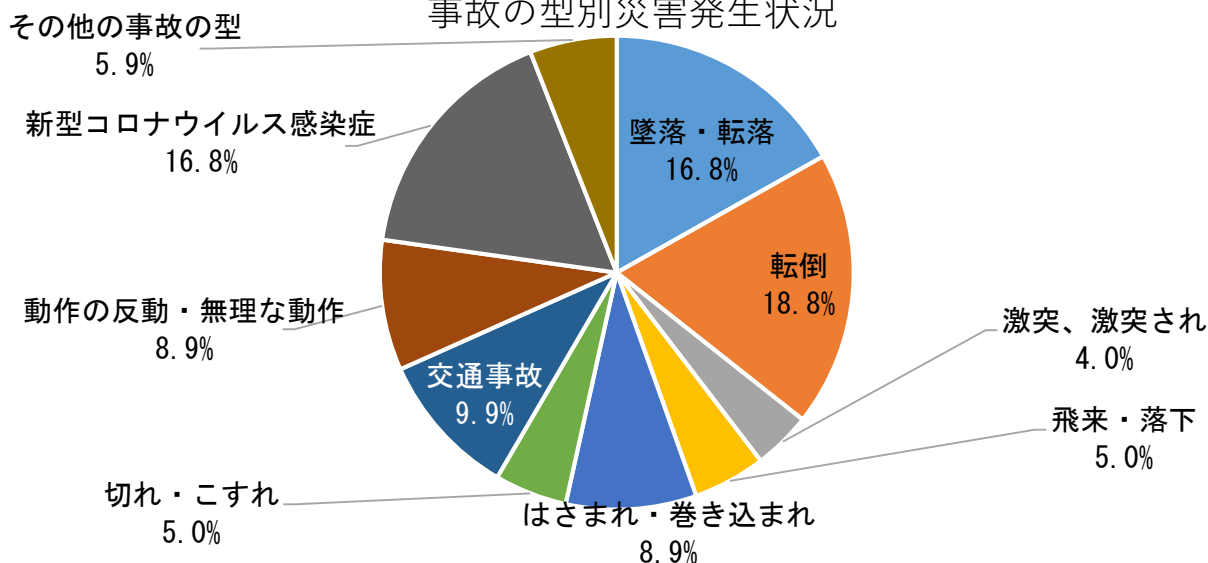
事故の型別では、全業種をとおして「**墜落・転落**」や「**転倒**」が多発しているほか、製造業では「**はさまれ・巻き込まれ**」、商業では「**交通事故**」、保健衛生業では「**新型コロナウイルス感染症**」による災害が多く発生しています。

事業場における安全衛生管理状況を再度確認し、職場のリスク撲滅を目指しましょう。

桐生署における労働災害発生状況（6月末）



事故の型別災害発生状況



Case 1 : 墜落・転落

- 概要** 脚立を使用して窓の清掃作業をしていたところ、誤って転落し、床に頭を打ち付けた。
- 原因** 高所で作業するに当たり、墜落制止用器具（安全帯）や保護帽を着用、使用しなかったこと。



Case 2 : 転倒

- 概要** 入浴介助中に、介助対象者を立位にして支えようとしたところ、支えられず当該介助対象者とともに転倒し、壁に頭を打ち付けた。
- 原因** 複数で介助作業を行わなかったこと。浴室内にリフト等の介助用器具が備え付けられていなかったこと。



Case 3 : はさまれ・巻き込まれ

- 概要** 射出成型機を使用していた時、カバーを開けて機械内の修正作業を行っていたところ、スライドに挟まれた。
- 原因** カバーにリミットスイッチが設置されておらず、カバーを開けても機械が停止しなかったこと。



エイジアクション 100

50歳以上の**高齢労働者**による労働災害を防止するため、厚生労働省では、「**エイジアクション100**」（高齢労働者の安全と健康確保のための100の取組）の導入を推奨しています。

エイジアクション100では、チェックリストを活用し、事業場の現状把握、課題を洗い出すことができます。

高齢労働者に特有の**身体能力・判断能力の低下等**を考慮することにより、すべての年代の労働者にとって安全・快適な職場を形成することができます。

エイジアクション100チェックリストの項目例

- ✓ バランスを崩しても、機械の危険部分には接触しない高さのガードを設けるとともに、そのガードに触れてもケガしないようクッション等を設置している。
- ✓ ひねり、前かがみ、中腰等の不自然な作業姿勢を取らせないようにしている。
- ✓ 手元や文字が見やすくなるように、職場の明るさを確保している。
- ✓ 転倒・腰痛等に関連する体力測定やその予防のための筋トレ・ストレッチ体操等の運動指導を行っている。
- ✓ 加齢による身体・精神機能の低下による労働災害発生リスクを低減させるための安全衛生教育を行っている。

リ ス ク ア セ ス メ ン ト

- リスクアセスメント**とは、
- ①**職場に潜む危険性や有害性（リスク）を予め発見（特定）し、**
 - ②**リスクの大きさがどの程度かを見積り、**
 - ③**災害が発生する前に対策を講じる**
- ことをいいます。

リスクアセスメントは、機械・設備による対策を講じることが主であるため、機械等によるはさまれ・巻き込まれ災害防止に有効です。

「職場のあんぜんサイト」において、「リスクアセスメント実施支援システム」を公開していますので、ぜひご活用をお願いいたします。



【リスクアセスメントの流れ】

リスク特定



リスク見積り



優先順位決定



対策実施



記録・見直し

